

2016年3月期 第3四半期 決算概要

テルモ株式会社

上席執行役員 IR・広報室担当

北畠 一明

2016年2月4日

決算総括：高収益品の拡大により大幅増益

(億円)

単位：億円	14年度 Q3累計	15年度 Q3累計	増減率	為替除く 増減率
売上高	3,632	3,960	+9%	+ 5%
粗利益	1,907 (52.5%)	2,146 (54.2%)	+13%	+ 9%
一般管理費	1,169 (32.1%)	1,272 (32.1%)	+9%	+ 4%
研究開発費	209 (5.8%)	233 (5.9%)	+11%	+ 5%
営業利益	529 (14.6%)	641 (16.2%)	+21%	+23%
(のれん等償却除く)	658 (18.1%)	794 (20.1%)	+21%	+19%
経常利益	587 (16.2%)	610 (15.4%)	+4%	
純利益	334 (9.2%)	435 (11.0%)	+30%	

期中平均レート

US\$	107円	122円
EUR	140円	134円

- 売上 : グローバルで、カテーテルを中心に心臓血管が牽引し継続伸長
- 営業利益 : 心臓血管における高収益品の売上拡大に伴い粗利益が増加
- 経常利益 : 前年同期の為替差益(81億)に対し、今年度は差損(24億)
- 純利益 : 幡ヶ谷(東京都渋谷区)の土地売却益など

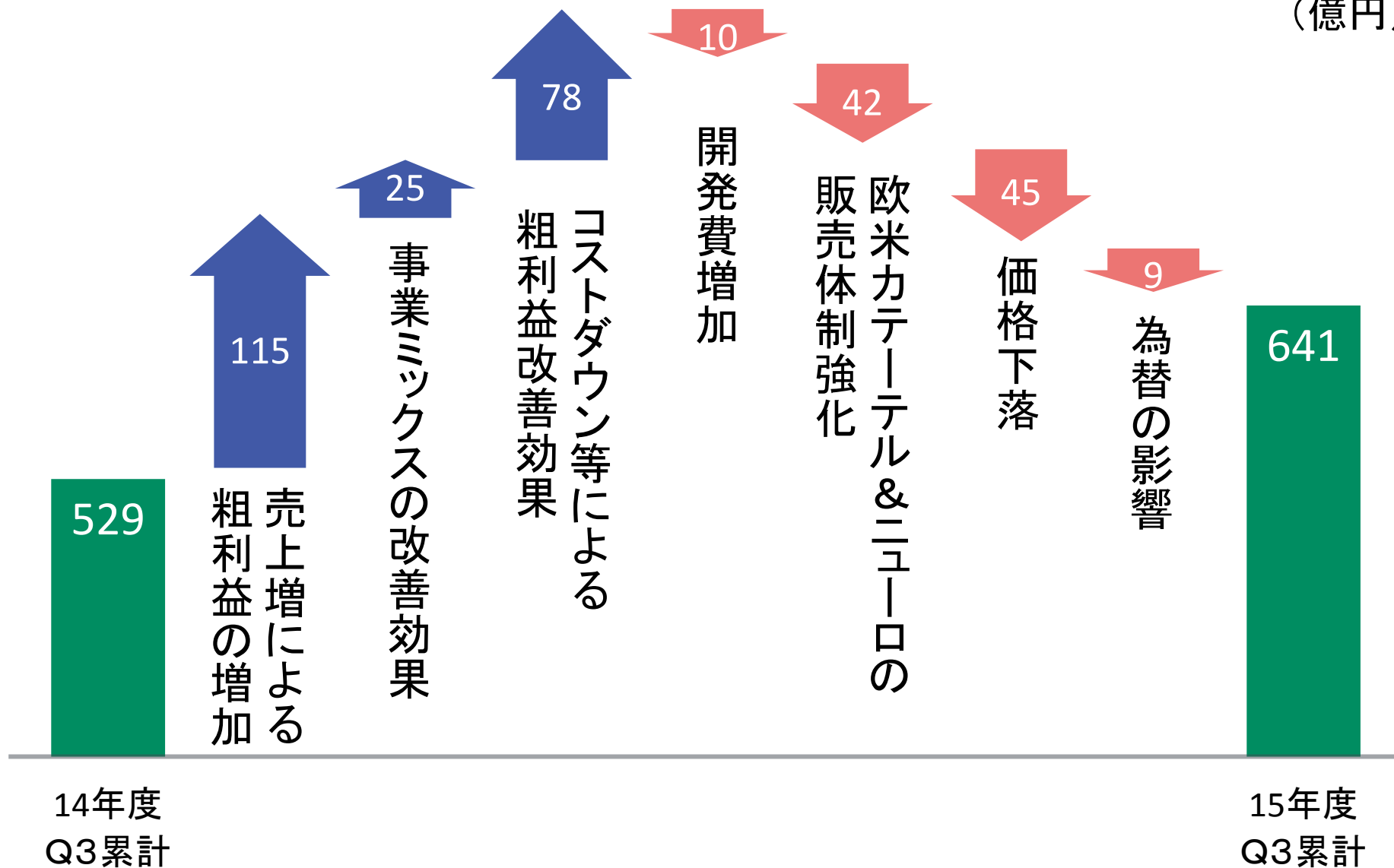
営業外・特損益・法人税

(億円)

	14年度 Q3累計	15年度 Q3累計	
営業外損益	58	-31	為替 14年度 +81 15年度 -24
経常利益	587	610	前同比+4%
特別損益	-64	+43	14年度 欧州再編 -64 15年度 幡ヶ谷土地売却 (Q2) +44
税前利益	523	653	前同比+25%
法人税等合計	-189	-219	税制改正 税負担減 18
法人税等負担率	36%	33%	
純利益	334	435	前同比+30%

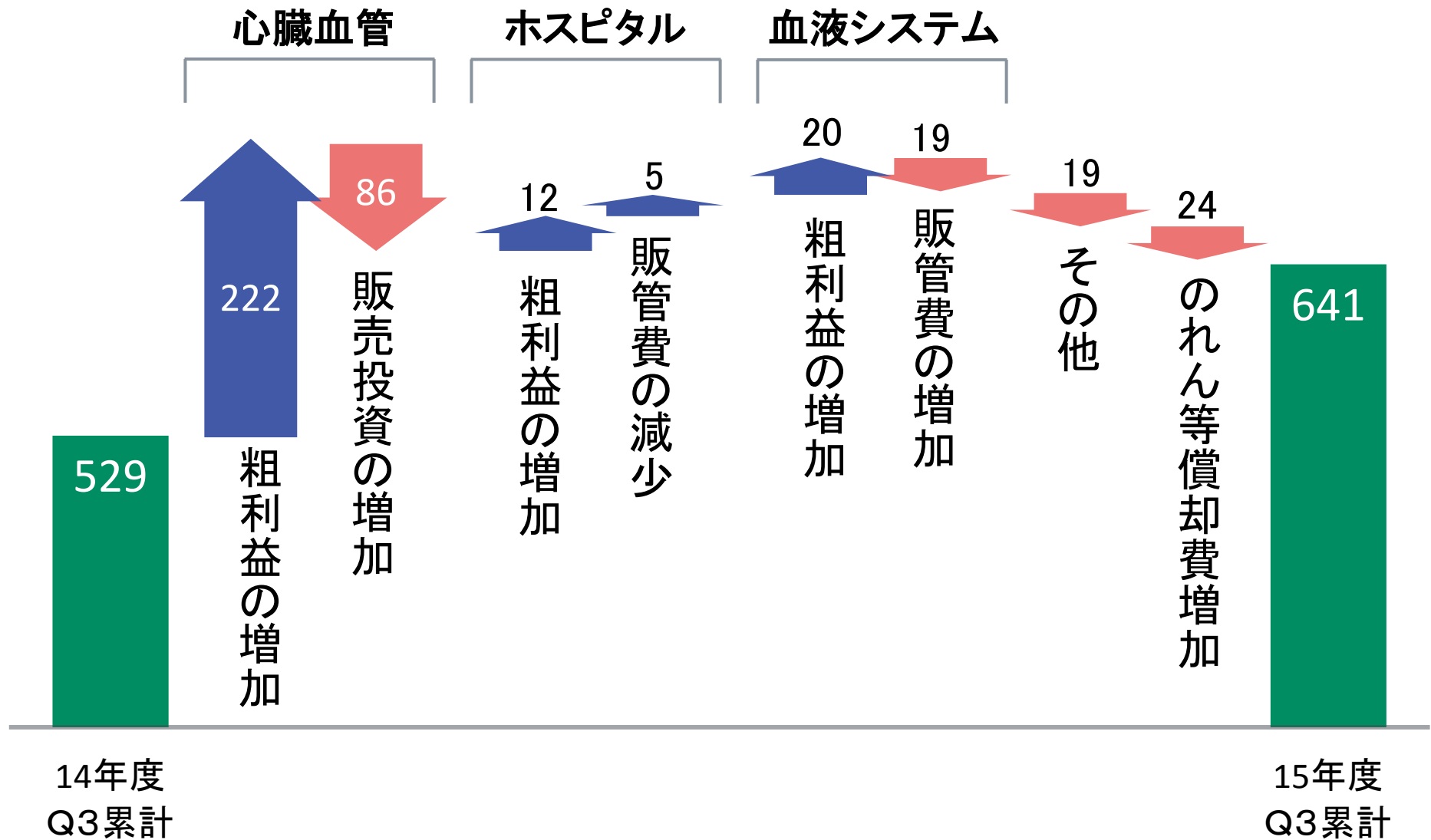
営業利益増減分析

(億円)



営業利益増減分析

(億円)



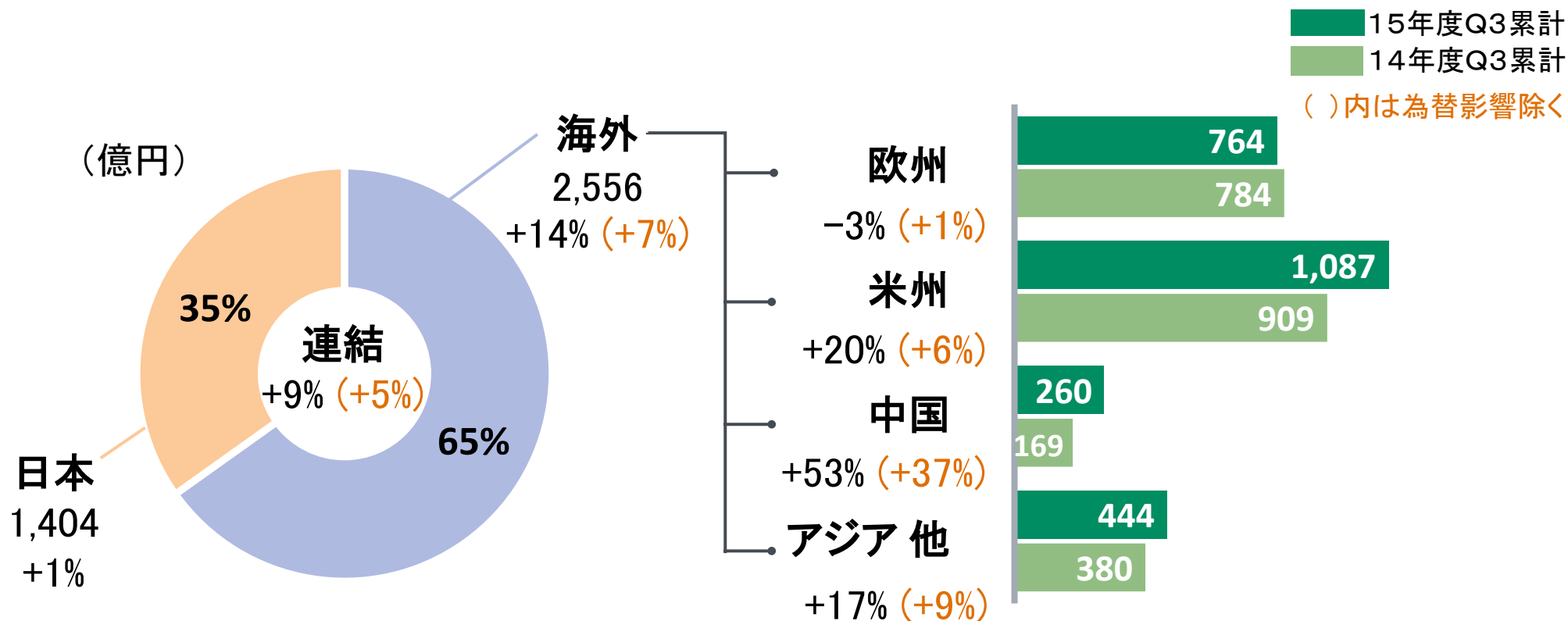
15年度 Q3累計：為替変動の影響（対前年比）

期中平均レート	14年度	15年度	
USD	107	122 (+ 15円)	14%安
EUR	140	134 (△ 6円)	4%高
人民元	17.3	19.3 (+ 2円)	12%安

(億円)

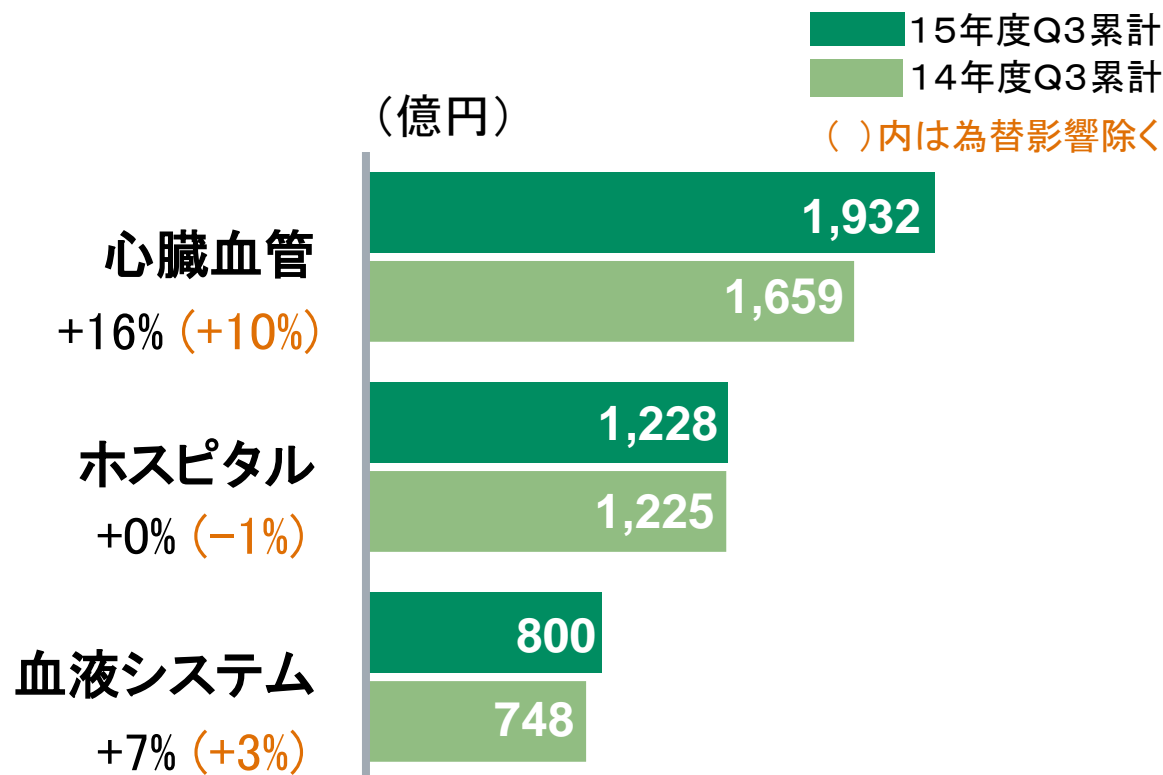
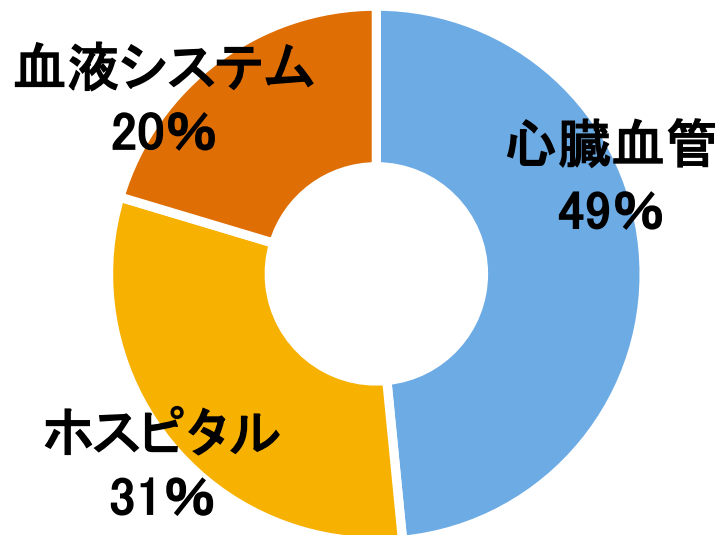
	売上高	営業利益
USD	+ 145	のれん等影響 - 8
EUR	- 20	- 16
人民元	+ 30	人民元建売上影響 + 30 製造原価影響 - 12
他新興国通貨	- 5	- 3
合計	+ 150	- 9

地域別売上高



- 日本:「Ultimaster」を中心に心臓血管が全体を牽引し増収
- 欧州:ホスピタル合理化に加え、血液事業において対ドル・ユーロ安の影響を受け減収
- 米州:カテーテルやニューロが継続伸長
- 中国:代理店網の見直しで、内陸部の顧客カバー率が拡大し増収

カンパニー別売上高



- 心臓血管: 海外カテーテルおよびニューロの継続伸長に加え、「Ultimaster」が牽引し、為替の影響を除いても二桁伸長
- ホスピタル: 欧州における合理化の影響
- 血液システム: 新興国の成分・全血採血に加え、治療アフェレシスが継続伸長

心臓血管カンパニー: 海外カテーテル・ニューロに加え日本も大幅伸長

(億円)

	14年度 Q3累計	15年度 Q3累計	増減率	為替除く
売上高	1,659	1,932	+16%	+10%
事業利益(率)	342 (21%)	478 (25%)	+40%	+26%

<売上面>

- 海外カテーテルやニューロが北米を中心に継続伸長 +157億
- 中国:代理店網の見直しにより内陸部の顧客カバー率拡大 +76億

<利益面>

- 海外カテーテルおよびニューロの売上拡大、また「Ultimaster」のグローバルでの売上拡大による利益増とポートフォリオミックスの改善

ホスピタルカンパニー:D&D、DMの伸長、コスト改善活動で収益は改善傾向

(億円)

	14年度 Q3累計	15年度 Q3累計	増減率	為替除く
売上高	1,225	1,228	+0%	-1%
事業利益(率)	165 (13%)	182 (15%)	+11%	+12%

<売上面>

- 日本: 腹膜透析や疼痛緩和が引き続き伸長 + 17億
- 日本: 血糖計や「ナノパス」等DM製品が伸長 + 4億
- 欧州: ポートフォリオ再編の取り組み - 21億

<利益面>

- 工場における継続的なコスト改善に加え、原油安による材料費減

血液システムカンパニー：新興国、アフェレシス治療が継続伸長

(億円)

	14年度 Q3累計	15年度 Q3累計	増減率	為替除く
売上高	748	800	+7%	+3%
事業利益(率)	142 (19%)	143 (18%)	+1%	+8%

<売上面>

- アフェレシス治療や細胞処理システムが継続伸長 +33億
- 中国・アジアにおいて成分・全血採血ともに伸長 +29億

<利益面>

- 米国を中心とした新価格のマイナス影響
- 米国生産・欧州販売製品での対ドル・ユーロ安によるマイナス影響

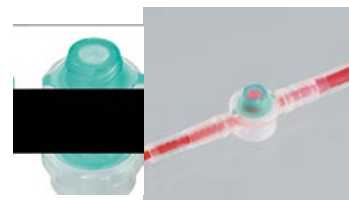
Q3 主なトピックス

- 今年度の中間配当、また期末配当予想を増額修正(11月)
- 「テルモ コーポレート・ガバナンス基本方針」制定(11月)
- 3製品が2015年度グッドデザイン賞を受賞(10月)

全社



静脈留置針
「サーフローV3」



ニードルフリー輸液システム
「シュアプラグAD」シリーズ



血栓吸引カテーテル
「エリミネートプラス」

- 日経フォーラム「世界経営者会議」(11月):
イノベーションについて登壇(新宅)



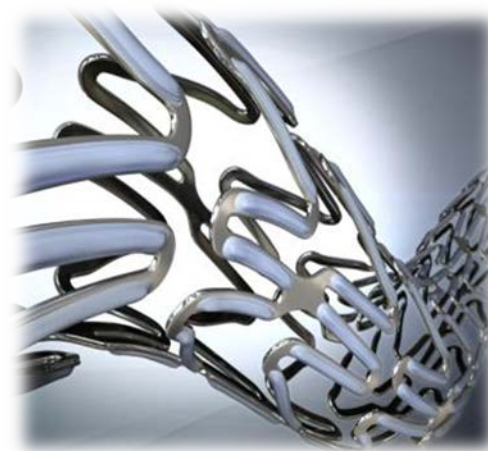
事業

- 日本で薬剤溶出型ステント「Ultimaster」をローンチ(10月)
- ヒト(自己)骨格筋由来細胞シート「ハートシート」の保険償還価格決定(11月)

15年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品		地域	ローンチ
心臓	DES (Ultimaster)	◎◎ ★	日	10・1発売
	次期血栓吸引カテーテル		欧・南米・亜	Q4予定
ペリフェラル	ステント (Misago)	★	米	Q1
	PTAバルーン (膝上)		欧・米	Q2
	PTAバルーン (膝下)		日	FY16 予定
	塞栓用ビーズ	★	欧	Q1
脳	コイルアシスト・ステント	◎	日	Q1
	液体塞栓剤	★	欧	Q1
	プロテクションデバイス	★	欧	Q4 予定

領域	製品		地域	ローンチ
CV	遠心ポンプ・ディスポ (PCPS用)		日	Q4 予定
血液	自動製剤化システム	★	日	FY16 予定



DES「Ultimaster」
日本ローンチ(10月1日)

◎ 業績貢献 大、★ イノベーション度 高

業績予想修正

■第3四半期の好調を反映し、業績予想を修正

(億円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
従来予想(9月)	5,250	760	730	485
今回修正予想	5,250	800	750	500
修正額	—	+40	+20	+15

➤ 経常利益以下は、年度末の為替レートの変動によって変わる可能性あり

■第4四半期の動向予想

➤ 海外カテーテル・ニューロが好調という基本トレンドは変わらず

➤ 懸念材料としては、

✓ 日本での競合DESのローンチ

✓ 血液事業の価格低下(3Q末まででほぼ完了、4Qはフルに影響)

✓ 新興国通貨安

自己株取得500億円(取得期間:2016年2月5日~3月31日)

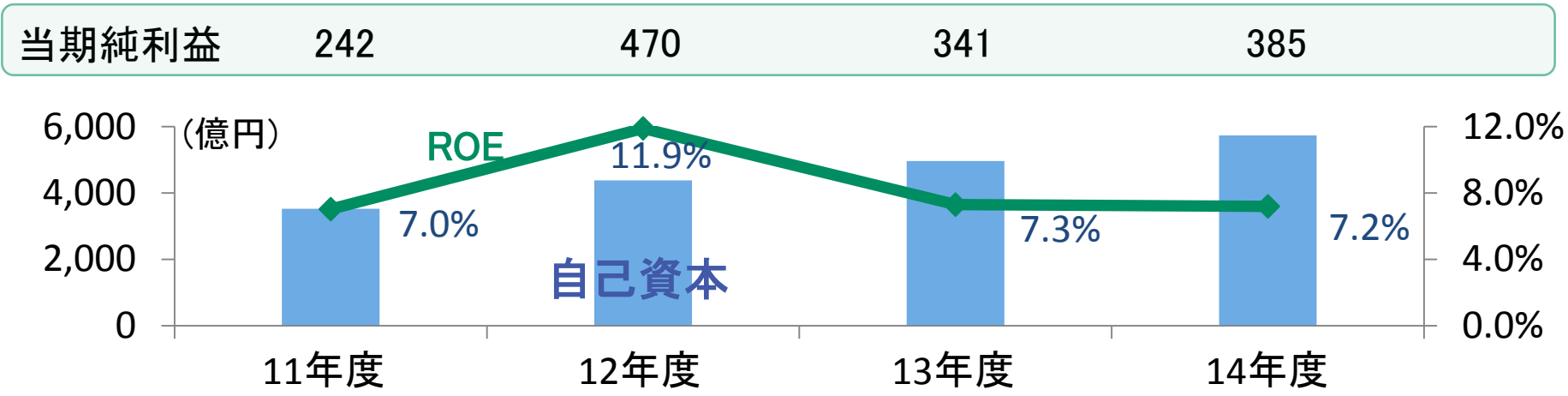
■目的:資本効率の向上

➤ コーポレート・ガバナンス基本方針に沿った機動的な資本戦略の一環

■今後の対応

- 成長投資優先の方針に変わりない
 - ✓ 技術買収は積極的に実施、その他も探索中
- 成長投資と手元資金のバランスを見ながら検討

参考: ROE推移



参考資料

事業別 地域別売上高と伸長率(15年度Q3累計)

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	378 (+5%)	1555(+12%)	496 (+4%)	671(+11%)	205(+41%)	183(+12%)	1932(+10%)
うちカテーテル※	290 (+5%)	1228(+15%)	397(+4%)	490 (+16%)	195(+43%)	146(+16%)	1519(+13%)
ホスピタル	943 (+1%)	285 (-6%)	71 (-21%)	65 (-4%)	15 (+18%)	135 (+3%)	1228 (-1%)
血液システム	84 (-9%)	716 (+4%)	198 (+4%)	351 (-1%)	40 (+24%)	127 (+14%)	800 (+3%)
合計	1404 (+1%)	2556 (+7%)	764 (+1%)	1087 (+6%)	260 (+37%)	444 (+9%)	3960 (+5%)

※ ニューロバスキュラー事業含む
()内は為替影響除く対前年同期伸長率

販管費

(億円)

	14年度 Q3累計	15年度 Q3累計	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	521	575	+54	+10%	+5%
販促費	116	126	+10	+ 9%	+5%
物流費	82	83	+1	+ 1%	-0%
償却費	184	210	+26	+14%	+4%
その他	266	278	+12	+ 5%	+1%
一般管理費計	1,169 (32.1%)	1,272 (32.1%)	+103	+ 9%	+4%
研究開発費	209 (5.8%)	233 (5.9%)	+24	+11%	+5%
販管費合計	1,378 (37.9%)	1,505 (38.0%)	+127	+ 9%	+4%

()内は対売上高%

四半期の動き

(億円)

	14年度Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	15年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)
売上高	1,299	1,263	1,287	1,305	1,368
粗利益	678 (52.2%)	654 (51.7%)	690 (53.7%)	704 (53.9%)	753 (55.0%)
販管費	405 (31.2%)	424 (33.5%)	417 (32.5%)	427 (32.7%)	429 (31.3%)
開発費	74 (5.7%)	84 (6.7%)	79 (6.1%)	80 (6.1%)	74 (5.4%)
営業利益	199 (15.3%)	146 (11.5%)	194 (15.1%)	197 (15.1%)	250 (18.3%)
のれん等償却 除く営業利益	245 (18.8%)	194 (15.3%)	245 (19.1%)	248 (19.0%)	301 (22.0%)

四半期	US\$	115円	119円	121円	122円	121円
平均R	EUR	143円	134円	134円	136円	133円

設備投資と研究開発費

(億円)

	15年度 予想	Q3累計 実績	進捗率
設備投資	290	213	73%
償却費※	450	332	74%
研究開発費	350	233	67%

※のれん・無形資産含む、設備投資は取得ベース

<設備投資見直し 360億円から290億円に修正>

1. 投資時期見直し Δ 30億円
2. 投資金額圧縮 Δ 20億円

キャッシュフロー

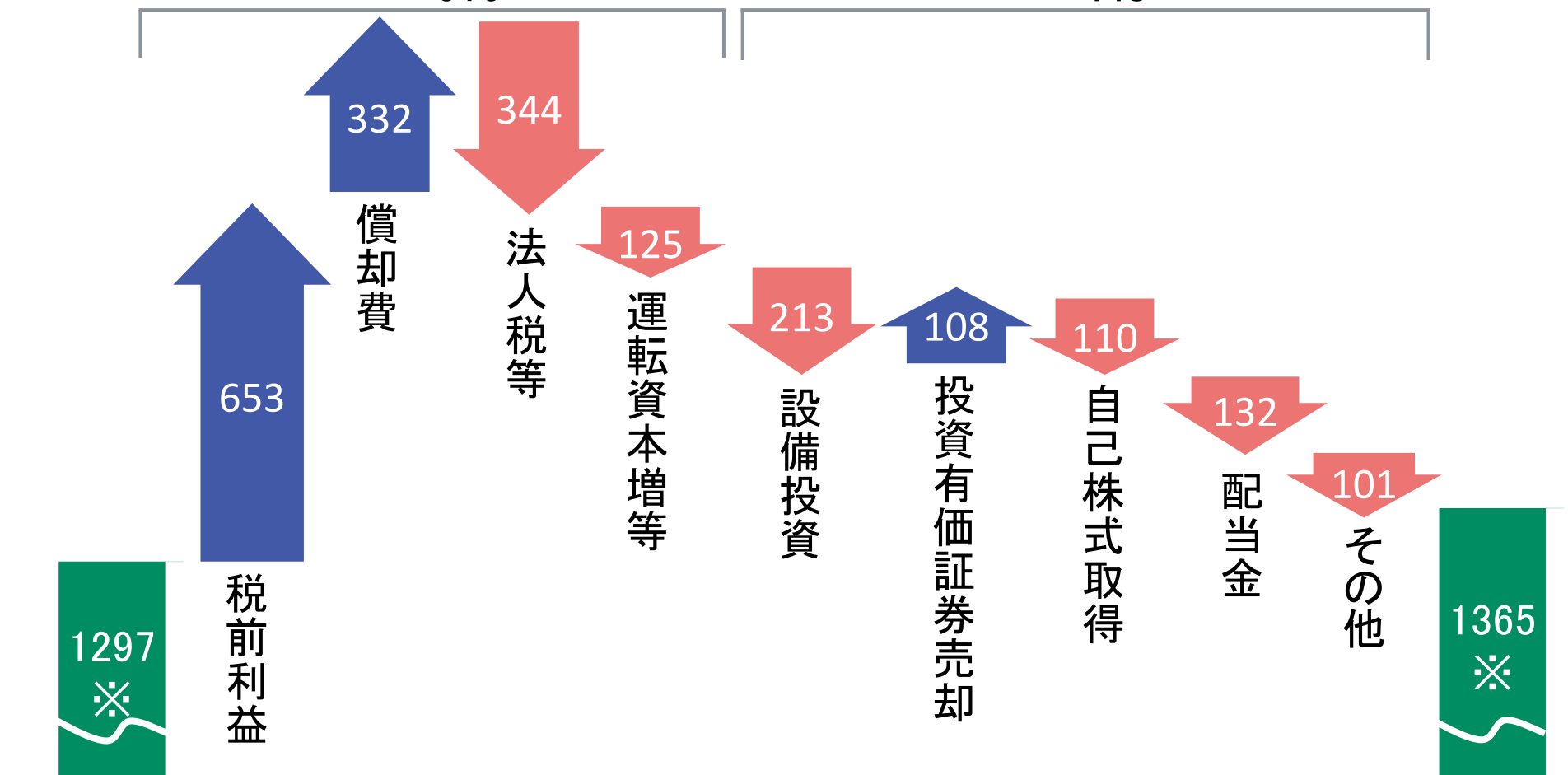
営業キャッシュフロー

+516

投資・財務キャッシュフロー

- 448

(億円)



14年度末
現預金残高

※期末現預金残高はB/S内「現金及び預金」と整合

15年度Q3末
現預金残高

為替感応度

(億円)

	US\$	EUR
売上高	18	7
営業利益	1	2

- ドルに関し、北米を中心とした売上拡大により売上感応度は高めに推移
ただし、BCT買収後海外生産比率の上昇により営業利益の円安効果は縮小
- 新興国通貨下落による営業利益減をユーロ安効果で相殺

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。